

●胃がんリスク検診（ABC検診）：その1

■胃がんリスク検診とは：

一般に胃がん検診とはバリウムを飲んで胃部をX線撮影する方法と胃カメラによる内視鏡検査のことをいいます。それに対して胃がんリスク検診とは血液検査によって胃がんのリスクつまり危険度を判定する検査のことです。

■胃がんリスク検診の血液検査とは：

「ピロリ菌の有無を調べる検査」と「胃炎の有無とその程度を調べる検査」を組み合わせて行います。ピロリ菌はピロリ菌抗体を、胃炎はペプシノゲン値を調べます。

■リスクとは：

ピロリ菌抗体とペプシノゲン値を組み合わせて、胃がん発生頻度を危険度（リスク）の低いAからB、C、Dと分類します。そのためABC検診とも呼ばれています。

■リスク分類と判定：

ABC 分類	A	B	C	D
ピロリ菌抗体	－	＋	＋	－
ペプシノゲン値	－	－	＋	＋

- 1) A群：胃粘膜萎縮がなく、胃がん発症リスクが極めて低い状態です。
- 2) B群：胃粘膜萎縮は軽度。ピロリ菌除菌と定期的内視鏡検査が必要です。
- 3) C群：胃粘膜萎縮が進んでいて、ピロリ菌除菌と定期的内視鏡検査が必要です。
- 4) D群：胃粘膜萎縮が高度であり、ピロリ菌が生息できない状態です。

他のピロリ菌検査を追加して、陽性なら除菌が必要です。D群は胃がんの発症リスクが最も高いため、内視鏡検査は毎年受けましょう。

■判定結果の考え方と対応：

- 1) 胃がんリスク検診は直接胃の内部を観察する検査ではありません。ピロリ菌感染の有無やペプシノゲン値から胃がんの発症リスクを分類したものです。
- 2) A群で胃がんの発症リスクが“0”ということではありません。
- 3) 胃がんリスク検診の判定結果にしたがって内視鏡検査は必ず受けてください。内視鏡検査をすることによって胃だけではなく食道から十二指腸までの部位に他の病変を発見することもあります。
- 4) ピロリ菌陽性の場合には除菌が必要になりますが、除菌前に内視鏡検査をしなければなりません。これは“内視鏡による胃炎の診断”と“胃がんの除外”が必要だからです。ペプシノゲン検査は保険適用になっていませんので自費での人間ドックや検診で行われますが、内視鏡検査と一連の除菌および除菌判定は保険で行うことができます。
- 5) ピロリ菌抗体検査で陰性の場合でも偽陰性（本来は陽性なのに誤って陰性と判定）のこともあり、他のピロリ菌検査と組み合わせて判断する必要があります。この場合もピロリ菌検査だけを保険で行うことは出来ません。保険診療で行う場合は、ピロリ菌検査の前に内視鏡検査が必要になります。
- 6) 胃がんリスク検診の判定結果がでたら、かかりつけの先生に相談しましょう。